



第2回先進的まちづくり大賞で国土交通大臣賞をとった 前橋市では、何が起きているのか

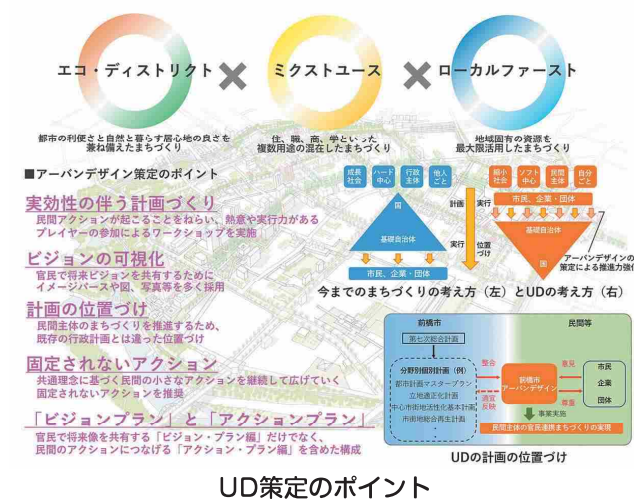
前橋市 市街地整備課

■「先進的まちづくり大賞」とは？

先進的な技術や手法、官民連携による活性化に向け、他都市でも普及可能な取り組みを表彰するもので、毎年5月に国土交通省が発表しています。昨年は新型コロナウイルスの影響で延期となり、11月に発表され、本市及び一般社団法人前橋デザインコミッション(以下MDC)が国土交通大臣賞を受賞しました。

■前橋市アーバンデザイン(以下UD)の策定と民間主体のまちづくり

官民それぞれでまちづくりに取り組んでいた中、世界基準のまちづくり事例を学んだ際に、官民で共有する将来ビジョンの必要性を強く感じたことから、UDの策定に着手しました。民間主体のまちづくりを推進するために、実効性の伴う計画づくりや他計画との位置づけ、固定されないアクションの推奨等、今までの行政計画には無い手法や考え方を多く取り入れ、令和元年9月にUDを策定しました。そしてUDを推進、普及する民間組織としてワークショップ参加者を中心に、完全民間出資によるMDCが同年11月に設立、翌年4月には都市再生推進法人に指定されました。これらの官民の取り組みを戦略的に短期間で達成した点などが、本大賞において評価を受けました。



UD策定のポイント

民間主体のまちづくり

■ UDに沿った取り組み① 広瀬川周辺

UD策定後はモデルプロジェクトである広瀬川のエリア価値向上を目指し、河畔緑地整備とリノベーションまちづくりを進めています。昨夏には整備後のイメージを体験できるよう、広瀬川nightテラスとミズベリング前橋(社会実験)を実施し、キッチンカーの集客効果や、近隣店舗への人の流れなどが確認できました。そこで12月に開催した第2回UDシンポジウムでは、遊休不動産のリノベーションと公共空間利活用にてケータリングカー(飲食だけでなく物販を含む車両)の出店体制構築をプラスし、3つの柱とした「前橋版リノベーションまちづくり」を発表しました。そして現在は、エリア価値向上に向け遊休不動産と事業者のマッチングを進めています。



広瀬川河畔緑地整備イメージ

■ UDに沿った取り組み② 馬場川通り

馬場川通りではMDCや地元関係者等により民間資金を活用し、遊歩道や河川の整備をするプロジェクトが立ち上がりました。行政は住民の合意形成をサポートしながら、動態モニタリングを活用した屋外空間の使い方を検証する社会実験等による協力支援をしていきます。そして今後は中心市街地の他エリアにおいても、市民発意によるUD実現に向けた取り組みに対する様々な協力を続けていきます。



馬場川通りの民間整備イメージ



UDに伴う官民連携まちづくりについては本市HPにまとめております